

目次

・特別展準備レポート「新・豊田の文化財」展	2
・近代化遺産紹介「伊世賀美隧道と大正時代の鉄筋コンクリート(RC)アーチ橋」	3
・地域資料館紹介 藤岡民俗資料館・小原郷土館	4
・遺跡紹介「大桑城」	5
・発掘調査速報	6
・探しています!! 市域の古写真	7
・文化財シリーズ57・資料館NEWS	8



豊田市は、平成17年4月1日に旧旭町、足助町、稲武町、小原村、下山村、藤岡町の6町村と合併し、愛知県下第二位の人口、県下一広い面積の市となりました。

この合併により、豊田市内の指定文化財は、195件増えて307件となりました。旧町村の指定文化財は、種別では天然記念物が99件と圧倒的に多く、次いで彫刻19件、有形民俗文化財15件、無形民俗文化財13件と続きます。指定の区分では国指定4件、県指定21件、市指定170件となります。このような指定文化財は、これまで各町村の歴史的・文化的な財産として大切にされてきたものばかりです。今回の特別展では、旧町村の指定文化財を紹介するとともに、旧豊田市内に伝わる代表的な文化財も紹介します。

《展示資料紹介①：国指定文化財》

国が指定する有形文化財は、重要文化財と呼ばれます（重要文化財の中で、さらに貴重なものと認められたものが国宝です）。この中から今回の展示でぜひ見ていただきたい資料を紹介します。

◎重要文化財 「紙本著色織田信長像」



この織田信長像は、豊田市内の長興寺が所蔵している画像です。国指定・重要文化財の、この織田信長像は、教科書やテレビで最もよく登場する画像ですが、この画像が豊田市内にある事を知る人は意外に少ないのではないのでしょうか。この画像が最もよく使用される理由としては、軸の下部に「天正十一年六月二日」と記載がある事、生前の信長に直接会った京都の絵師・狩野元秀によって描かれた事によります。この天正11

年(1583)6月2日は本能寺の変の1年後にあたります。信長の一周忌の法要に、この画像がかかげられたのでしょう。

眉間に皺がよった風貌は神経質と言われられる信長の生前の姿をよく表現しているのではないのでしょうか。今回は、期間中の土日祝日に公開します。是非、この機会にご覧ください。

この他には豊田大塚古墳出土須恵器、親鸞上人絵伝（如意寺蔵）太刀銘行安（猿投神社蔵）等の展示を予定しています。

《展示資料紹介②：愛知県指定文化財》

◎飯盛山経塚出土品



この鏡は「秋草遊兔双雀鏡」といい、足助町の飯盛山の経塚から出土した資料です。直径が、10.9cmほどしかない小さな銅鏡ですが、秋草の野原に遊ぶウサギ、2羽の雀の文様が刻まれたかわいらしい鏡です。平安時代末期の作と考えられています。

この経塚からは、他に刀子が見つっていますが、断片的にしか残っており全体的な様子が見えていません。

この他には、人形浄瑠璃の首と衣裳（小田木区）手呂の銅鐸、扁額鉄砲的打図板額（足助八幡宮）等の展示を予定しています。

また、市域には豊かな自然を背景に多くの天然記念物や棒の手、万歳といった無形民俗文化財も多くあります。これらは、写真やリストで紹介する予定です。市域の歴史散歩にぜひおこしてください。

※今回ご紹介した展示資料は都合により変更する場合もございます。詳細については事前にお問合せください。

（伊藤智子）

伊世賀美隧道と大正時代の 鉄筋コンクリート(RC)アーチ橋

近代化遺産紹介

豊田市から長野県飯田市へ向かう飯田街道（現在の国道153号に相当）は「中馬街道」とも呼ばれ、近世には馬の背に寄せられた海の産物や山の産物が行き交う物資輸送の幹線路でした。近代になると、荷馬車が輸送手段として使用されるようになり、坂の勾配の改善や道の拡幅など、積極的に街道が改修されるようになりました。今回紹介するのは、こうした近代の交通の歴史を語る近代化遺産です。

《伊世賀美隧道》^{いせがみずいどう}明川町岩立一連谷町石神を結ぶ旧道に位置します。愛知県の施工によって明治30年(1897)に完成しました。規模は延長308m・高さ3.3m・幅3.15mです。坑口には切石が積まれ、重厚な趣のアーチ上部には「伊世賀美」と刻まれた題額がはめ込まれています。当初の設計では掘削した坑道をレンガ巻きにする予定でしたが、地層や湧水の問題から崩落のおそれが生じたので設計を変更し、すべてを石巻きにしています。



伊世賀美隧道(連谷町側から)

《郡界橋》^{ぐんかい}連谷町柝平一小田木町本洞の段戸川に架けられています。愛知県の施工により大正6年(1917)に竣工した、東海地方最古のRCアーチ橋です。橋の長さは約24.9m、幅は3.8mです。

郡界橋以下ここに紹介する橋は、谷に露呈する岩盤を橋台等に利用して2本のアーチを掛け渡し、その上に井桁風に柱を載せて路面を支える構造となっています。それらの姿は、川幅や谷の深さによりアーチの形状が異なりますが、RCでありながら和風の雰囲気を感じ出しています。橋といえば木造がほとんどであっ

た時代に、RCの橋がそれぞれの場所に造られたことは、地域の特色とともに、この街道に対する人々の思いや時代の要求を考えさせられます。



郡界橋(国道153号から)

《真弓橋》^{まゆみ}御所貝津町萩平一同松測の黒田川に架けられています。愛知県の施工により、大正8年(1919)に竣工しました。長さ約20m、幅1.7mを測ります。桁から上部の路面は木製です。

《前橋》^{まえ}大野瀬町日カゲ一同日ヨモの野入川に架けられています。橋の長さは16.7m、幅は3.6mを測ります。

《ウルシゼ橋》飯田街道ではありませんが、稲武地区から岐阜県へ向かう国道257号沿いにあり、川手町ウルシゼ一同オオホラの名倉川に架けられています。愛知県の施工により、大正7年(1918)に竣工しました。橋の長さは27.5m、幅は3.7mです。橋の中央から両端へ向かって、2本のアーチの間隔が開き、井桁上の柱の下端もアーチに合わせて開く複雑な構造をしています。「日本の黎明期RCアーチ橋を代表する名橋」と評されています。(表紙写真参照)

これらの遺産は道路交通の主役が自動車となった現在では利用者も少なく、自動車の通行用に新たに造られた道路の脇にひっそりと佇んでいます。近代の街道の姿を物語る重要な証人です。近くへお出かけの際には、ぜひご覧ください。(天野博之)

(参考文献) 愛知県教育委員会 2005 『愛知県の近代化遺産』
足助町 1975 『足助町誌』
石田正治 2006 『三遠南信産業遺産』

地域資料館紹介

〔豊田市藤岡民俗資料館〕

昭和29年(1954)10月に藤岡中学校の特別教室として建築された建物を使用して、昭和56年(1981)に開館した資料館です。

展示は、「原始・古代からの大いなる遺産」「藤岡のあけぼの」「土と炎と」「まなぶ」「いのり・やすらぎ」「土づくりから収穫まで」「養蚕と織物」「くらし・いくさ」の8コーナーにわかれています。縄文時代前期(約6,000年前)後期(約3,500年前)の水汲遺跡(下川口町)から出土した縄文土器は、見ごたえがあります。

屋外には、昭和のはじめ、藤岡地域に700基もあったといわれる水車小屋と、昭和48年に発掘調査が行われた^{ささがま}笹窯の復元がされています。

- 住 所 豊田市藤岡飯野町井ノ脇401
(名鉄バス「飯野」下車、徒歩5分)
TEL (0565)76-2949
- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休 館 日 毎週月曜日(休日は開館)
12月28日～1月4日
- 入 館 料 無 料



藤岡民俗資料館

旧山内家住宅(愛知県指定有形文化財)

民俗資料館へ行く坂道の途中右手に中央児童館があり、その横に旧山内家住宅があります。この建物は木瀬町にあった山内保氏の住宅で、昭和45年(1970)に現在地へ復元移築しました。

建坪60㎡(5.7m×10.8m)で、木造平屋茅葺き。内部は板敷の広間と土間に2分され、18世紀前半(江戸時代中頃)の西三河地方の一般農民の家の形を良く残しています。



旧山内家住宅

〔豊田市小原郷土館〕

昭和52年(1977)に小原村庁舎が新築されたため、古い庁舎(昭和11年=1936の建築)を使用して、昭和54年(1979)にオープンした資料館です。

福原郷土館(福原小学校の空き教室を利用。小学校は昭和53年3月閉校)の資料を中心に、新しく住民の方々から寄贈、寄託された資料が、当時の文化財保護委員の方々の献身的な努力によって展示されました。

展示は、歴史(縄文時代～第2次世界大戦)、教育、信仰、商業、生活、生産(和紙・養蚕・山仕事・稲作)、歌舞伎、矢作川、生活文化(食器・衣服・化粧道具)の9ゾーンにわかれており、「小原歌舞伎」の衣裳や舞台道具も展示されています。

- 住 所 豊田市小原町洞344-1
(おばらバス「小原大草」下車、徒歩2分)
TEL (0565)65-2540
- 開館時間 午前8時30分～午後5時
- 休 館 日 毎週月曜日、休日
12月28日～1月4日
- 入 館 料 大人130円、高校生70円
(20名以上は2割引)



小原郷土館

大桑城

豊田市内には数多くの戦国時代の山城が分布していますが、合併した地区では開発を逃れて比較的良好な状態で今日まで残ってきた山城が幾つも見られます。今回はその中で2005年に整備された大桑城^{おおくわ}を紹介します。

大桑城は三河湖から流れ出た巴川とその支流の大桑川の合流点近くに位置し、尾根の端に立地しています。現在、この付近には下山地区における学校統合により新たに誕生した巴ヶ丘小学校があります。この小学校の建設とともに、大桑城は地域の「歴史学習の森」として2005年に整備されました。小学校の敷地に隣接するため、学校の通用門から直接城跡へ行くことができます。一般の見学者に対しては県道から小学校への連絡道路の途中に城跡へ通じる道が整備されています。

大桑城は主^{しゅ}廓^{かく}の標高が440mで、大桑川が流れる平地からの比高が約40mあります。主廓の平面形状は隅丸の三角形(おにぎり形)で、周囲が130m・面積約870m²です。この主廓を取り囲んでいる土^ど塁^{るい}・堀^{ほり}切^{きり}などがみられ、これらを含めると城域の面積は約2,750m²あります。主廓の南東の辺の中央には「虎口^{こぐち}」と呼ばれる入口があり、その両側には延長約26mの土塁が構築されています。「虎口」から外部への通路は幅約2mの土堤で、その両側は主廓の正面を囲む堀切となっています。堀切は「虎口」付近で約5m、端部でも約2mあります。構造が単純な小規模な山城でしたが、現況でも遺構が明瞭に残り、見学するのにわかりやすい山城となっています。

大桑城の城主については文献などの記録がなく不明ですが、この地域一帯で権力をもった豪族であったと推定されます。また、この城の興亡についても明確な記録はなく、不明です。甲斐の武田氏が中央進出をめざして三河・遠江を侵略する中で元龜2(1571)年に近隣に位置する足助城や大沼城を攻めていますので、同じ頃に攻め落とされたと推定できます。

また、この城の北方には羽布城^{はふ}もあり、あわせて見学されるとよいでしょう。

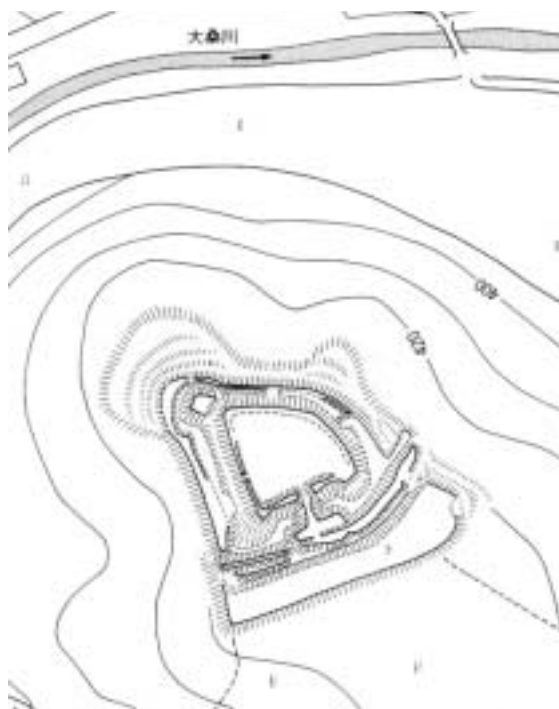
(杉浦 裕幸)



位置図(国土地理院1/50,000「足助」に加筆)



大桑城遠景



縄張り図(『愛知県中世城館跡調査報告Ⅱ』より)



どうたくん

発

掘調査速報



すえちゃん

○神明遺跡(鴛鴨町神明)

本遺跡では、これまでに竪穴建物162棟、掘立柱建物59棟などが調査され、特に5世紀後半に最盛期を迎える遺跡として著名です。

今回の調査は工場拡張に伴うもので、5月29日から6月9日に現地調査を行いました。面積は71m²と小規模でしたが、遺構密度は高く、竪穴建物6棟、掘立柱建物1棟、溝8条、土坑4基などを調査しました。

特筆すべきは縄文時代中期の竪穴建物が見つかったことです。壁の一部を残すのみで全形は不明ですが、内部には円筒形のピット(炉?)がありました。ピットの半ばに縄文時代中期の土器が埋設され、その下部は強く熱を受けて赤くなっていました。平成10年にも縄文時代中期後葉(約4,000年前)の竪穴建物を調査しており、神明遺跡における縄文時代の竪穴建物は2例目

となります。その他の竪穴建物は、古墳時代中期(4～5世紀)と奈良時代(8世紀)のものでした。

なお、今回の調査にあたりましては、戸田製作所より多大なご協力をいただきました。(森 泰通)



縄文時代の竪穴建物

○^{どうがいと}堂外戸遺跡(市木町堂外戸)

平成18年3月から7月にかけて、2,800m²の調査を完了しました。遺構密度はさほど高くはないものの、竪穴建物8棟、掘立柱建物5棟、方形周溝墓4基などが見つかりました。昨年度の北側の調査区では6世紀代の竪穴建物が数多く展開していましたが、今回の調査区では5世紀以前のものが半数を占めています。

矢作川に面する西側斜面からは、前年度調査区に続き、方形周溝墓群が検出されました。後世のかく乱で上部を大きく削られているため、埋葬主体はすでに残っていませんでした。溝を含めると1辺7～13mほど

の規模です。遺物が極端に少ないため時期を特定することが困難ですが、前年度調査した方形周溝墓群(6基)と軸をそろえ、かつ溝を共有していることから、弥生時代中期末(約2,000年前)を前後する時期の有力者のお墓と考えられます。

引き続き3月までに、南側約2,900m²の調査を行う予定です。(森 泰通)



西側斜面の方形周溝墓群(後方は猿投山)



調査区全景(後方は矢作川)



探しています!! 市域の古写真



写真は、撮影したその時・その場所を切り取り、記録として後代に残してくれます。卒業や行事などの記念に撮影した写真や、目にとまった風景などを記録するために撮影した写真、何気なく撮影した日常の写真…いろいろな場面で撮影された写真には、人々の表情や服装、建物や自然物などの背景、その他さまざまな情報が収まっています。



明治時代の西町通り(福田良三氏蔵)

「百聞は一見に如かず」ということわざがありますが、写真も撮影されたその時・その場所の情景を雄弁に語りかけてくれます。写真を見ることによって、その時代を知る人は懐かしい思い出がよみがえり、その時代を知らない人でも当時の様子に思いを馳せることができます。その意味において、「写真は時代の玉手箱」とも言えるかもしれません。

現在、近代の産業とくらし発見館では、「時代の玉手箱」である古写真を下記の要領にて募集しています。

目的 移り変わる市域の風景などを知るための資料とするため(保存の他、発見館の展示などに活用予定)。

対象 明治～昭和20年代に撮影された現在の市域の画像(人物・記念・日常風景など写されている対象の種類は問いません。またプリント・フィルムなど資料の状態も問いません)。

期間 平成18年11月3日(金)まで

応募方法 豊田市近代の産業とくらし発見館へ資料をお持ちいただくか、または郵送をお願いします。

その他、古写真所蔵の情報提供も受付けています。

資料の取扱い 寄贈していただける資料は発見館または郷土資料館で保管。その他の資料は一定期間借用し、複写等の記録を取らせていただいたうえ返却します。

問合せ・応募先 豊田市近代の産業とくらし発見館

〒471-0027 豊田市喜多町4丁目45番地

電話(0565)33-0301 (月曜日休館)



共同乾燥場(伴春男氏蔵)

自動車産業の発展とともに急激に都市化した豊田市域では、街やくらしの風景の移り変わりも激しく、かつての様子を知ることさえ難しくなっています。古写真は「時代の玉手箱」として、市域の歴史を物語る大変貴重な存在です。その一方、大事に保管されてきた写真も、普段から意識していないと次第に存在が忘れられ散逸してしまいがちです。

この機会にぜひご家庭のアルバムを見直していただき、市域の貴重な資料として、写真のご提供をお願いします。

発見館では下記の企画展を開催中です。古写真の応募とともにどうぞご覧ください。

名称 「くらしの中のクルマのかたち」

内容 豊田市が工業都市として成長してきた時代を、移り変わるクルマのかたちやくらしの風景から振り返ります。ミニカーや自動車型シガレットケース、写真パネルなど資料約120点を展示。

期間 平成18年7月22日(土)～9月24日(日)

場所 第1展示室 企画展示コーナー

文化財シリーズ



ぜん だいに
銭太鼓
県指定文化財

銭太鼓は市西南部、知立市と隣接する駒場町に伝えられている民俗芸能です。木枠の中に銭を通した太鼓を持った踊り子たちが、お囃子の伴奏に合わせ、節々で「ヨイヤ サッサイ」と声をかけながら踊ります。手にした太鼓はたたくものではなく、タンバリンのように振ると音が鳴る仕組みで、表面には太陽をかたどった赤い丸、裏面には月と星が描かれ、胴の部分は大地を象徴した緑に塗られています。内部には12枚の銭が配置され、天地の恵みによる農作物の豊作を願い感謝するという意味が、この銭太鼓に込められています。

銭太鼓はかなり古くからこの地域で行われていたようですが、その起源については文献資料が残って

ないため、はっきりしたことはわかっていません。伝承によると、平安時代に京都の公卿の娘がこの地に土着し伝わったもの。また一説には銭が鑄造された祝いの踊りとも、17世紀に京都で栄えた小町踊りが起源だとも伝えられています。こうした華やかな行事は一種の厄払いと信じられ、老若男女が集まり村の境へ踊っていき、隣村に厄神を送っていったといわれます。



近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会(11月三重県津市にて開催)に銭太鼓が出演します。

資料館NEWS

夏休み子ども月間終了

8月1日(火)～8月31日(木)に、夏休み子ども月間を開催しました。本年度も様々な催しを行いました。その様子を紹介します。

★スタンプラリー

火おこし器や黒曜石を使ってみたり、七州城大手門鯨の高さあてクイズ、鉢をつかって土器の復元に挑戦、名探偵になって展示資料を探したり



火おこし体験



土器復元に挑戦

★夏休み親子講座「まがたま作り」

古代の装飾品「まがたま」を作りました。子どもたちは真剣なまなざしでまがたまを磨いていました。まがたま講座は、毎年人気の講座です。

★夏休み親子講座「土偶作り」

粘土をつかって「土偶」を作りました。いろいろな形の土偶ができあがりました。

★夏休み子ども講座「織物作り」

縄文・弥生時代の布を織りました。子どもたちは古代の人が布を織るのにどんなに大変だったか身をもって体験していました。とても素敵な布を織り上げることができました。

★親子史跡めぐり

県指定史跡池田1号墳、城跡公園足助城、伊世賀美隧道(旧伊勢神トンネル)、伊勢神峠などに行きました。初めて史跡を見学した方も多く、大変喜んでいただけました。



期間中は1,599名の来館者があり、大盛況に終わりました。

利用案内

開館時間 9:00～17:00

休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)、年末年始

入場料 無料(特別展開催中は有料)

交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分

名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分

愛知環状鉄道「新豊田駅」より北へ 徒歩15分

駐車場 約20台

■豊田市郷土資料館だより No.57■

平成18年9月7日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎(0565)32-6561 FAX(0565)34-0095

E-mail: rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL: http://www.toyota-rekihaku.com

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。